

令和 2 年度指定研究報告 (中学部)

中学部研修係 金城 裕紀

プログラム

- 1 研究方針
- 2 通知表分析
- 3 授業実践
- 4 教育課程改善へ向けて
- 5 成果と課題

1 中学部研究方針

(1) 研究の流れ

- ① 観点別評価 ← 昨年度から継続
- ② 学習改善・授業改善 ← 主体的・対話的で深い学びにせまる
- ③ 教育課程改善 ← 足がかりを探る

1 中学部研究方針

(1) 研究方法

① 観点別評価

通知表分析

通知表の記述方法
の統一

1 中学部研究方針

(1) 研究方法

② 学習改善・授業改善

宮特授業改善のポイントを
意識した授業実践

1 中学部研究方針

(1) 研究方法

③ 教育課程改善

生単（理科・社会）

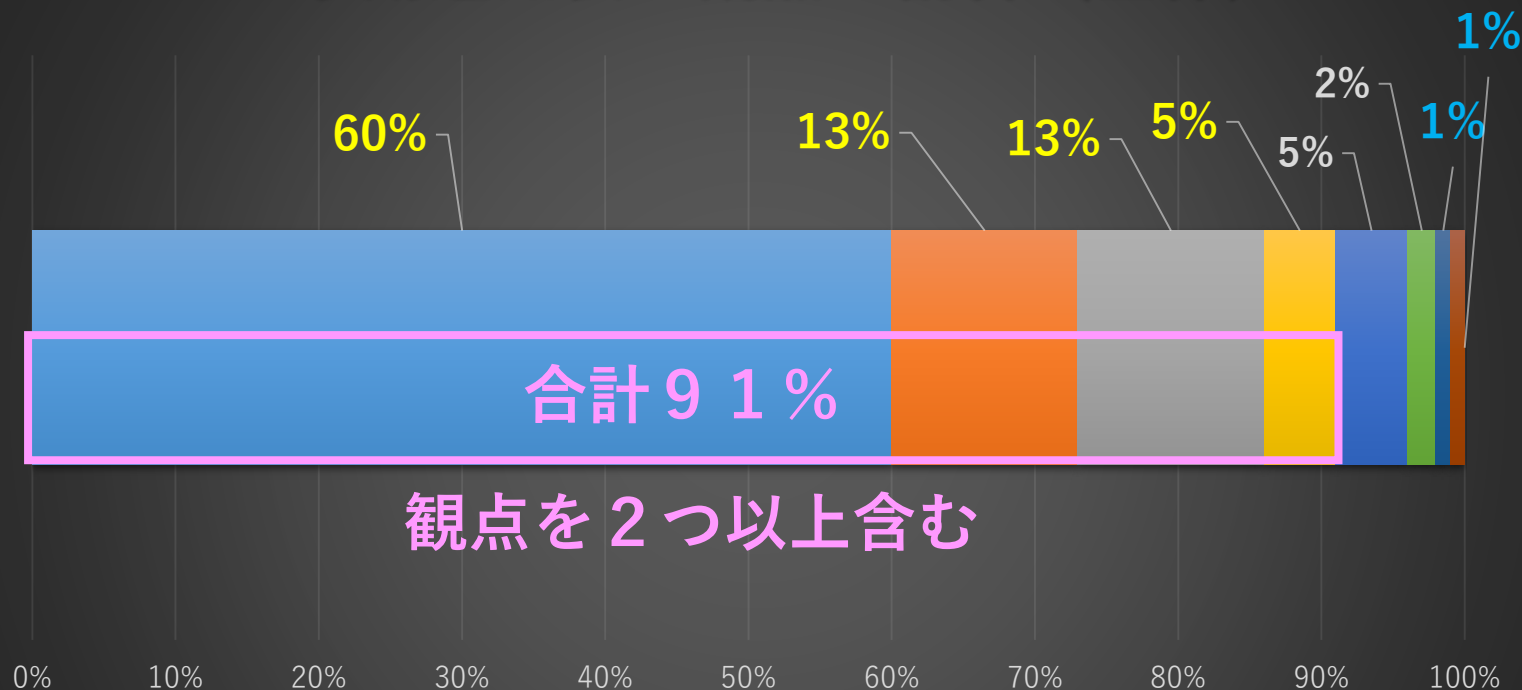
教科横断的な取り組み

行事と授業との関連

年間指導計画の見直し

2 通知表分析 分析結果① 全体

1 学期通知表 3 観点の割合 (全体)



「知が含まれる」
91%

「思が含まれる」
80%

「主が含まれる」
79%

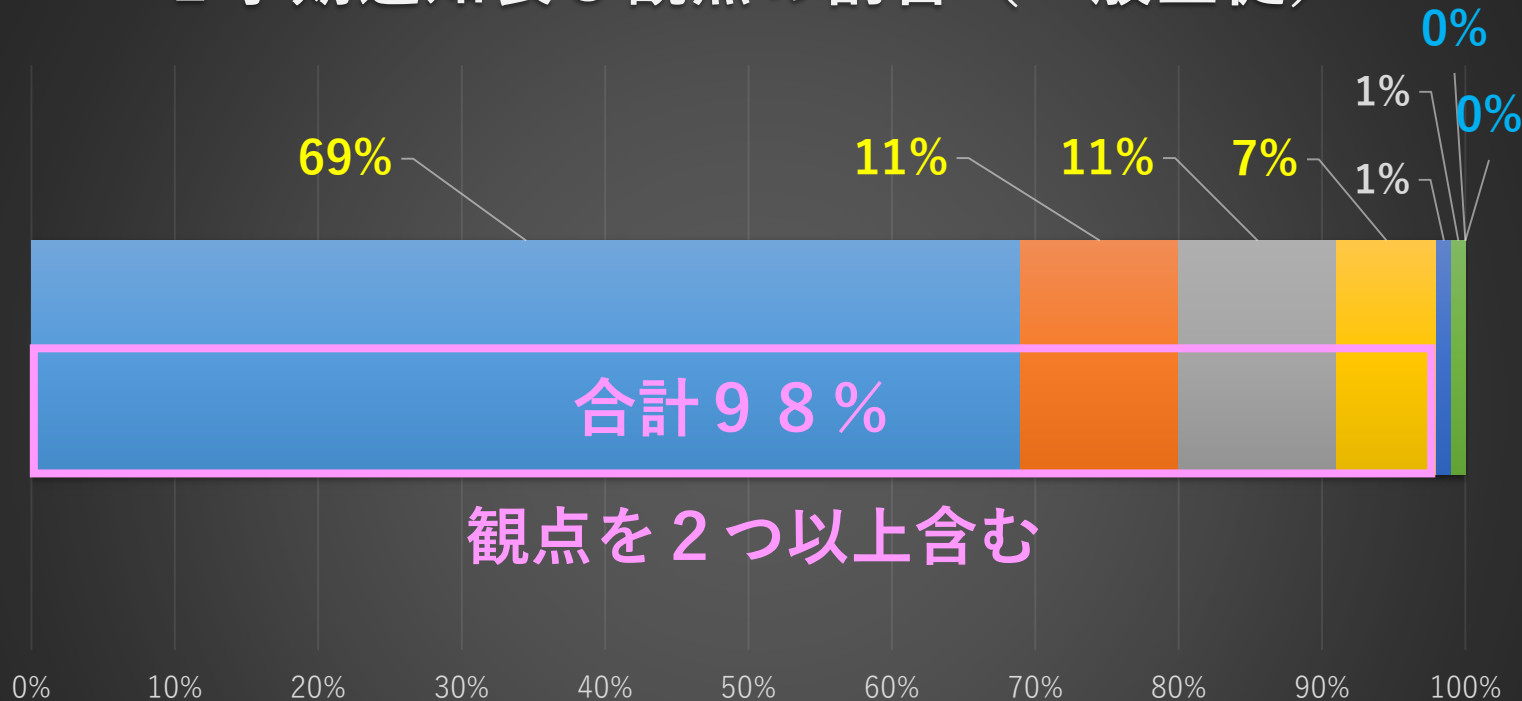


高い順に4つ

最も低い

2 通知表分析 分析結果② 一般生徒

1 学期通知表 3 観点の割合 (一般生徒)



「知が含まれる」
92%

「思が含まれる」
88%

「主が含まれる」
87%

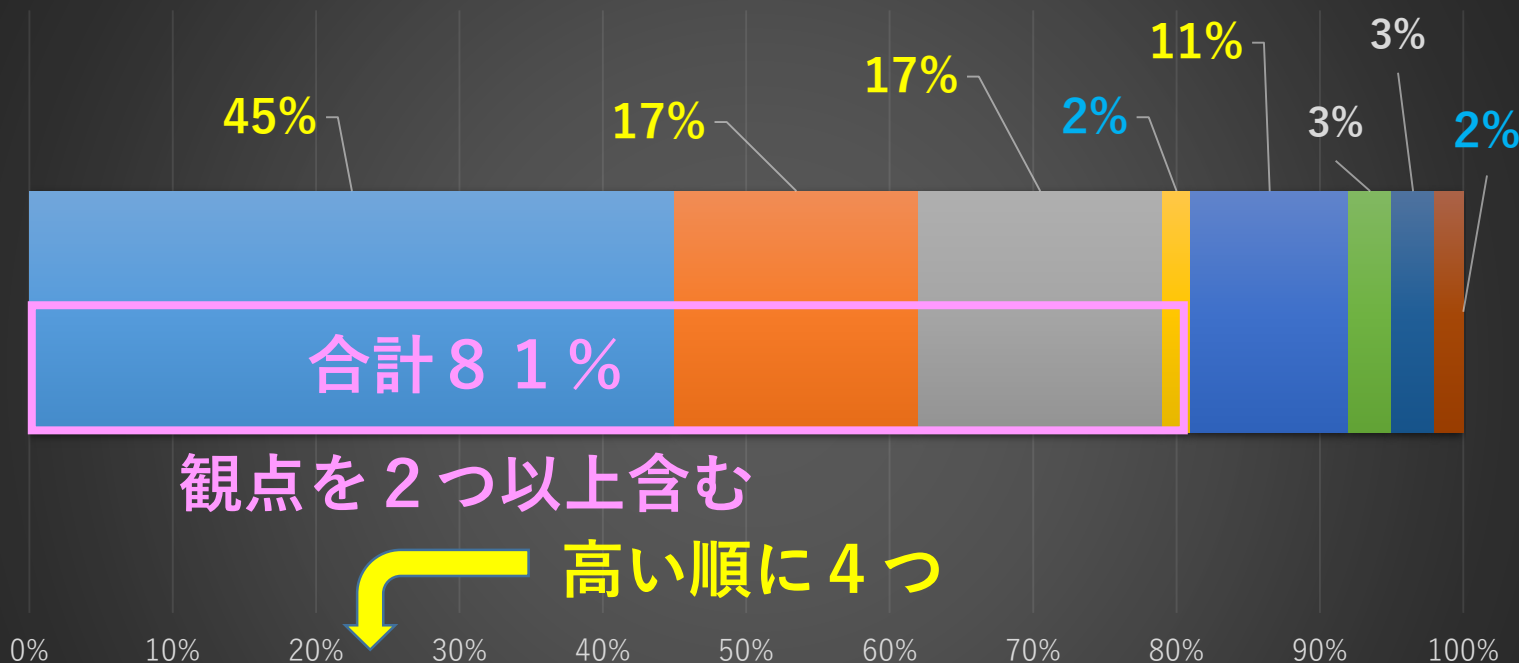


高い順に4つ

最も低い

2 通知表分析 分析結果③ 実態の重い生徒

1 学期通知表 3 観点の割合 (実態の重い生徒)



合計 81%

観点を2つ以上含む

高い順に4つ



「知が含まれる」

90%

「思が含まれる」

67%

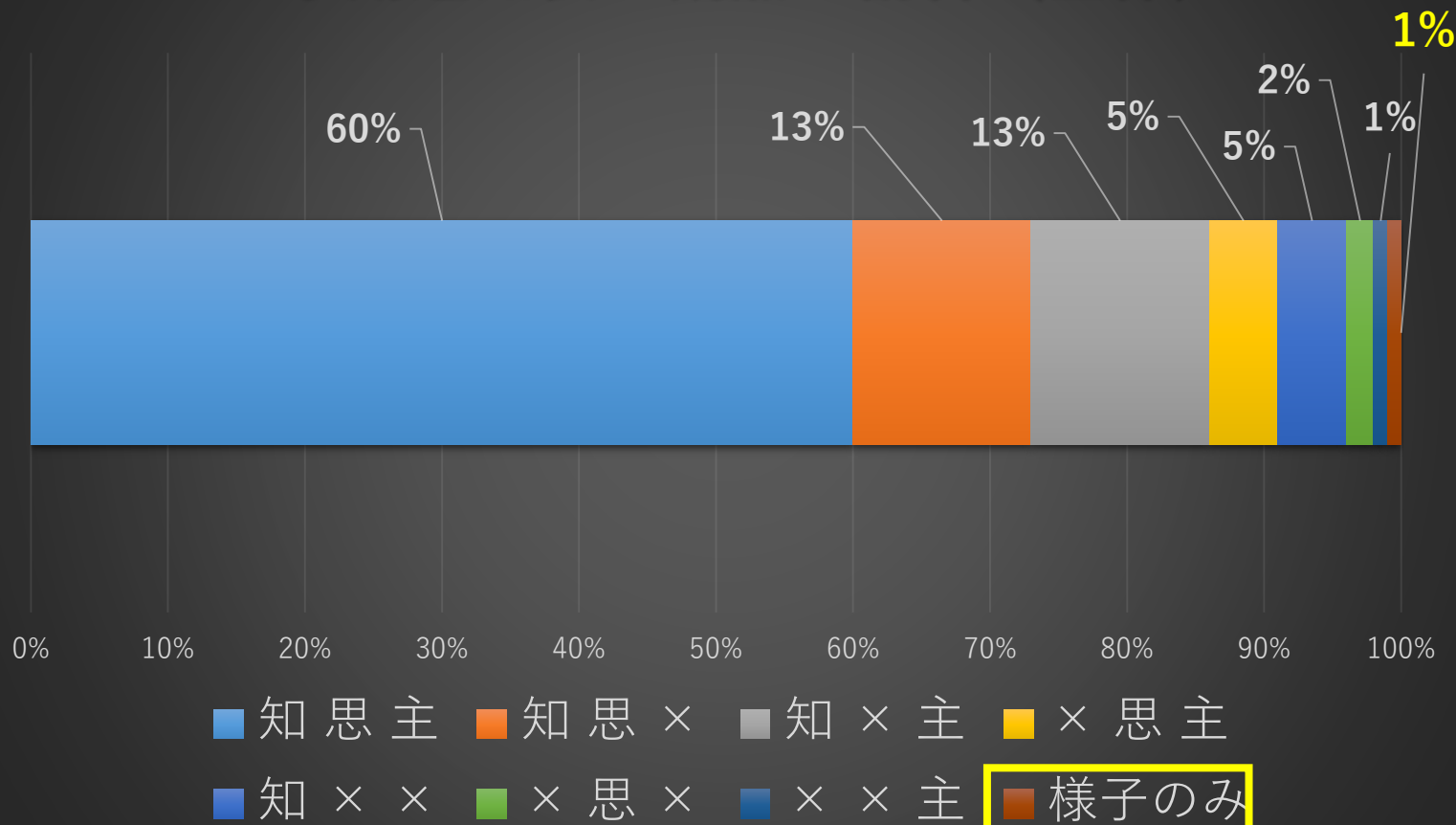
「主が含まれる」

67%

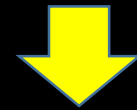
最も低い

2 通知表分析 考察①

1 学期通知表 3 観点の割合 (全体)



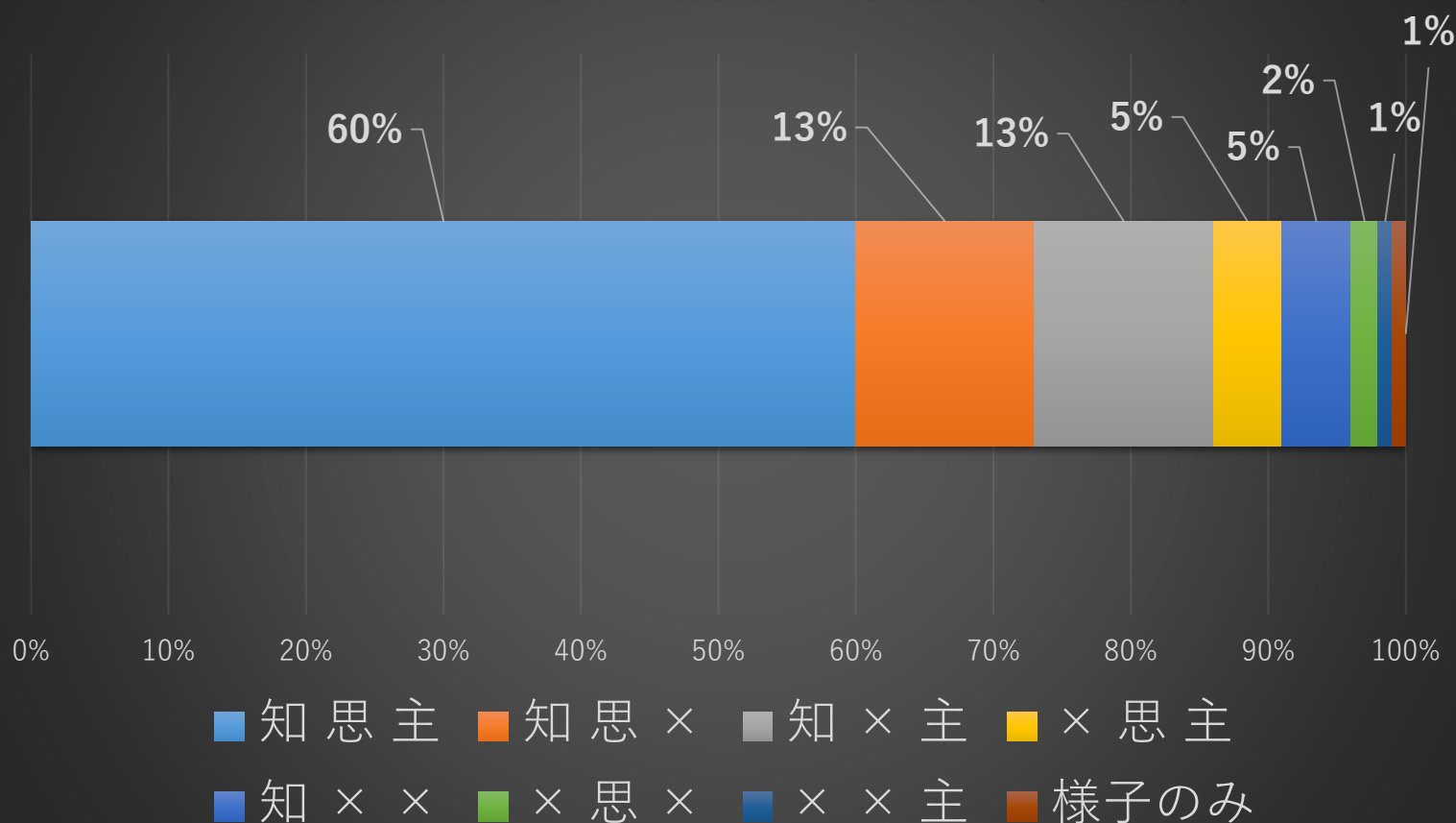
「様子のみ」が1%



新職員も観点別
評価を意識でき
ている

2 通知表分析 考察②

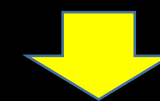
1 学期通知表 3 観点の割合 (全体)



「知が含まれる」 91%

「思が含まれる」 80%

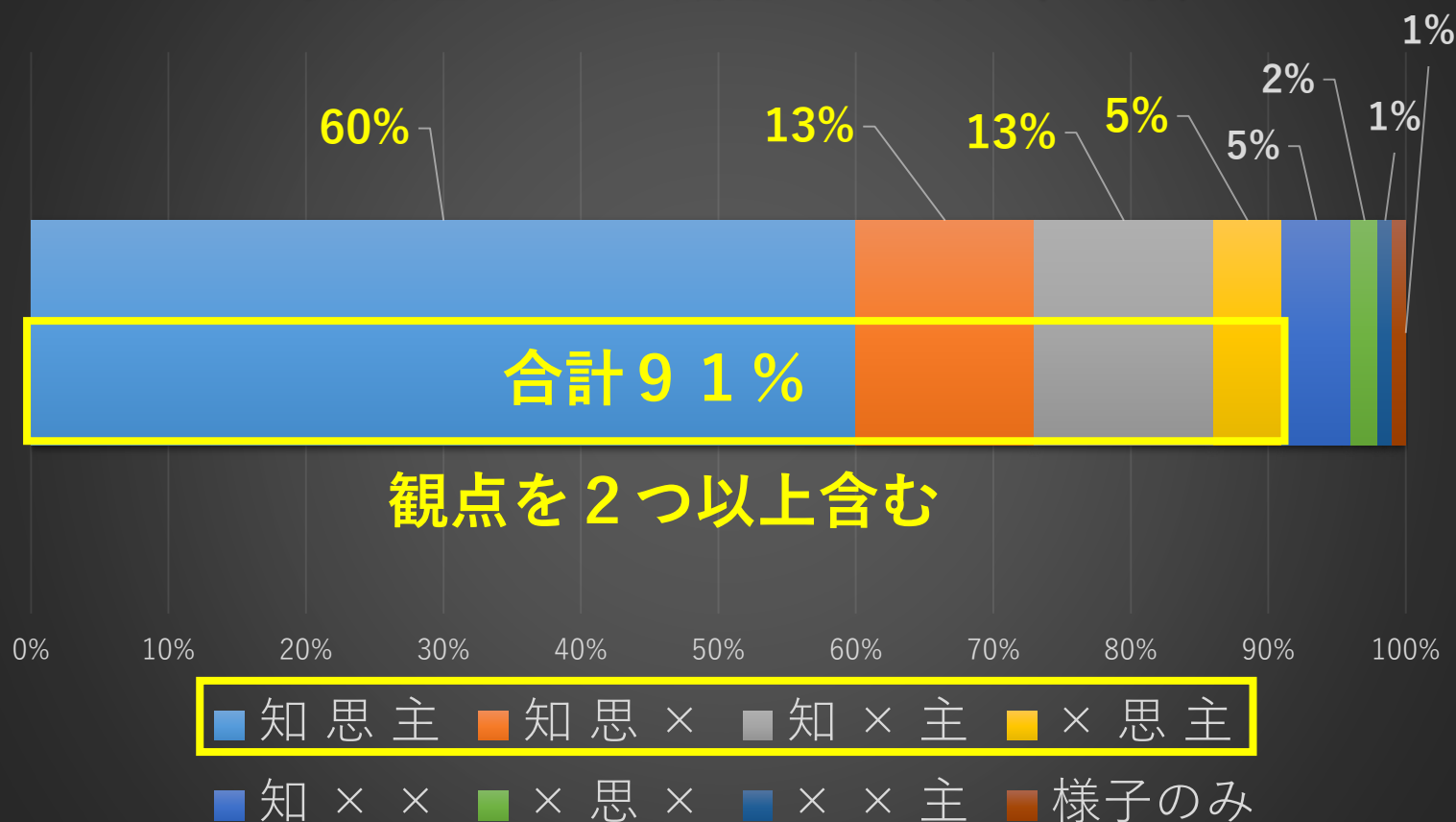
「主が含まれる」 79%



中学部全体の傾向として、「知」→「思」→「主」の順で授業が展開されている

2 通知表分析 考察③

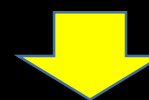
1 学期通知表 3 観点の割合 (全体)



観点を2つ以上含む

一般生徒 98%

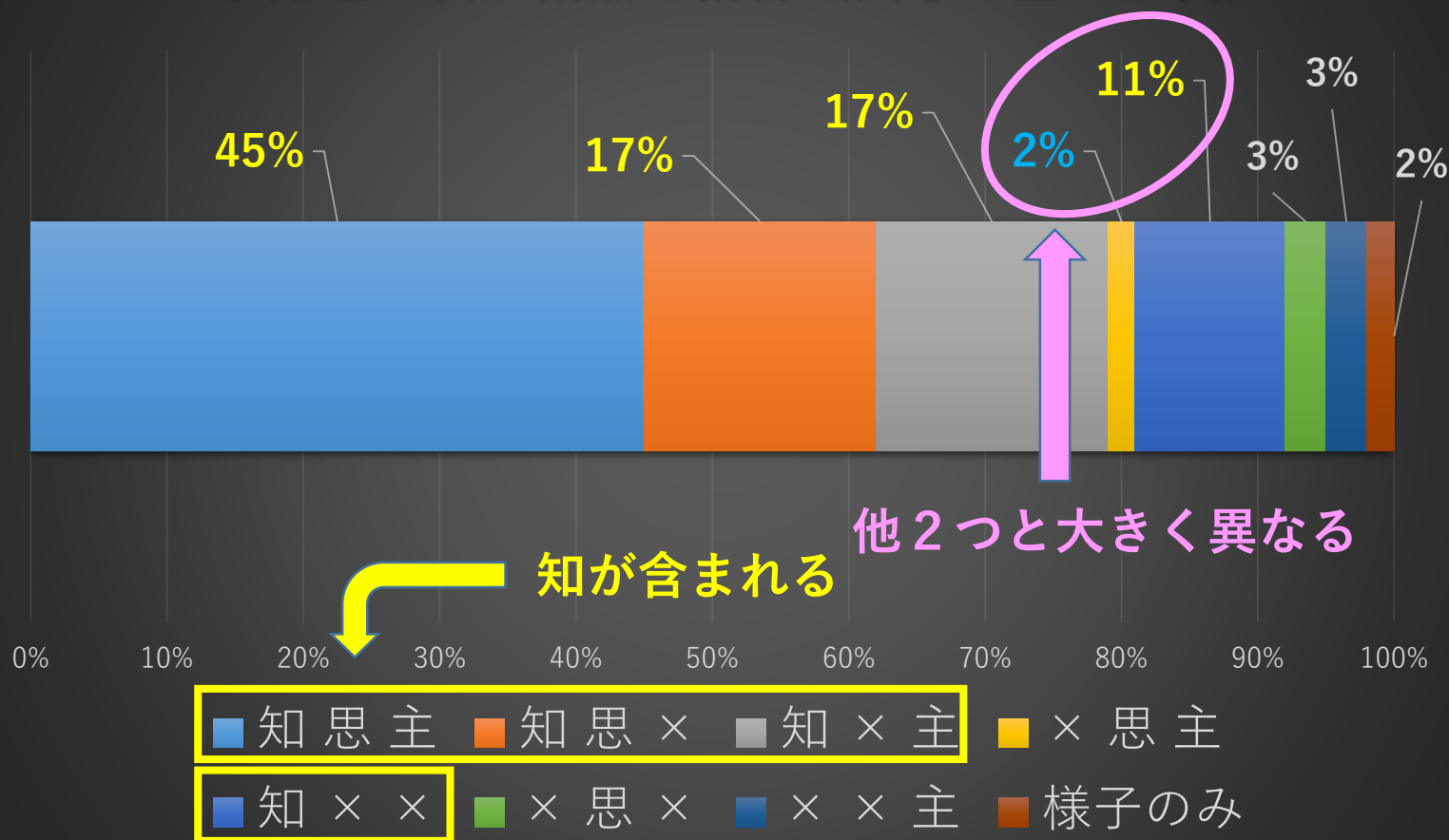
実態の重い生徒 81%



実態が重い生徒
ほど、3観点を
網羅して評価す
ることが難しい
傾向がある

2 通知表分析 考察④

1 学期通知表 3 観点の割合 (実態の重い生徒)



「知が含まれる」 90%

「思が含まれる」 67%

「主が含まれる」 67%

実態が重い生徒
 において、
 「思」、「主」の評
 価がうまくでき
 ていない

3 授業実践

(1) 目的

主体的・対話的で深い学びにせまるために、
宮特授業改善のポイントを意識した実践を行う



- ①子どもが、目標の意義や学習の計画を理解し、見通しを持っているか（めあてや学習計画の提示の工夫）
- ②子どもが考え、判断する場面があるか（教わる学習と考える学習のバランスや工夫）
- ③子どもが振り返り（評価）を通して、学びを意識化しているか（子どもに伝わる評価の工夫）

3 授業実践

(2) 実施計画

期間	5～8月	9～10月	11～12月
学習グループ	全体	各学習グループ	
教科・領域等	全教科	自由	
研究実践の足跡	<ul style="list-style-type: none"> 実践報告 報告の集計 実践事例の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 指導案 個別の評価記録 実践研究の流れ 成果と課題、感想 	<ul style="list-style-type: none"> 指導案（略案） 個別の評価記録 実践研究の流れ 成果と課題、感想

自分ができる台風対策を考えよう

(生活単元学習)



4 教育課程改善へ向けて

(1) 生単（理科・社会）の取り組み

	7月	9・10月	10月	10月	11月	2月
内容	七夕	台風	交通安全	交通安全	地図	未定
時数	2時間	10時間	2時間	2時間	2時間	未定
担当	2人	2人	2人	2人	2人	2人

4 教育課程改善へ向けて

(2) 行事と授業との関連を考える取り組み

がんばりの木



自己肯定感UP
(ねらい)



良い所を見つ
ける力UP

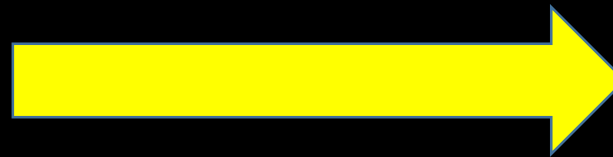
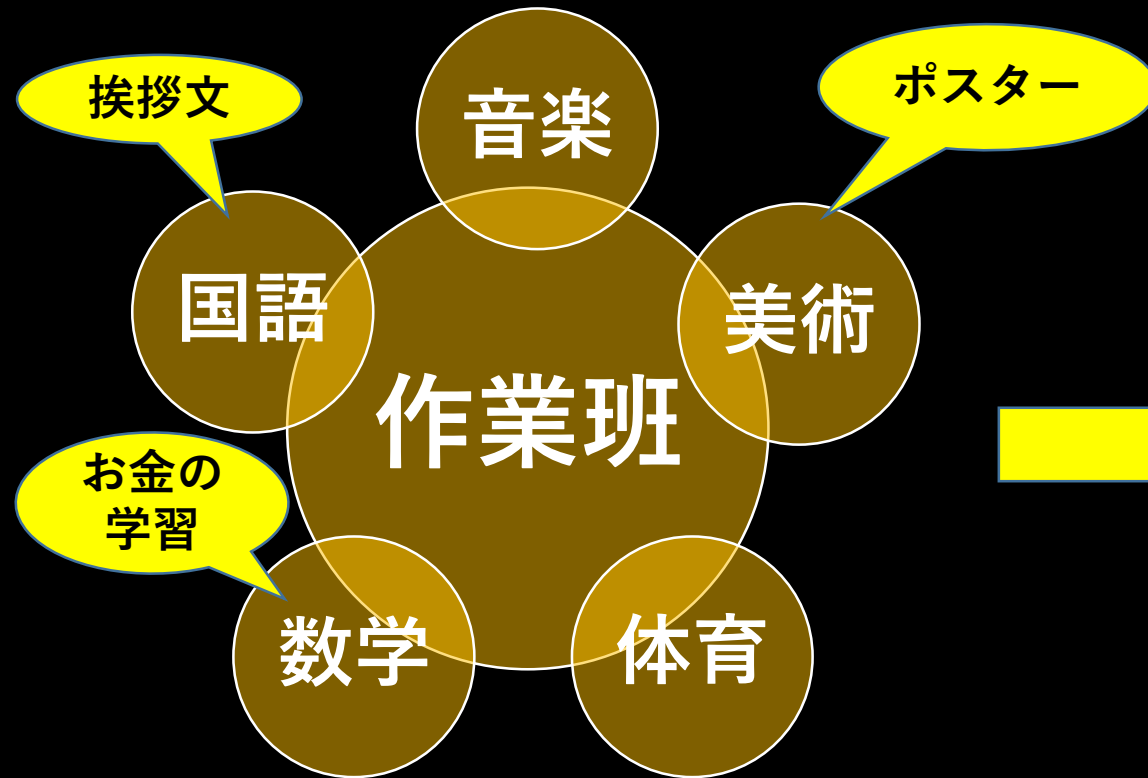


卒業を祝う



4 教育課程改善へ向けて

(3) 教科横断的な取り組み



学習発表会 (即売会)



4 教育課程改善へ向けて

(4) 年間指導計画の見直し

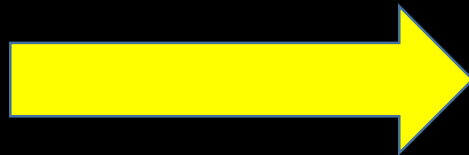
これまで



年間指導計画

作成(4~5月)

時は経ち



見直しは?

年間指導計画

次年度作成(4~5月)

4 教育課程改善へ向けて

(4) 年間指導計画の見直し

今後の予定



作成(4～5月)



評価・次年度案作成(1～3月)

次年度へ引き継ぎ

5 成果と課題

(1) 成果 ① ②

全職員実践事例報告を行ったことで、学部全員で観点別評価に関する理解を深め、実践方法等について共有することができた。

生単（理科・社会）に学部全員が担当として取り組んだことで、生単（合わせた指導）の在り方について、各自当事者意識を持って考えることができた。

5 成果と課題

(1) 成果 ③ ④

学部として、観点別評価を踏まえた**通知表の記述方法を統一**することができた。

観点別評価、生単（理科・社会）、行事と授業との関連を考える取り組み（がんばりの木など）を行ったことで、3学期に予定している**年間指導計画の見直しに**取り組みやすくなった。

5 成果と課題

(2) 課題 ① ②

子どもに伝わる評価の工夫について、「伝える」ことの実践報告は多数あったが、実際に子どもたちに「伝わっているか（学びを意識化しているか）」の確認については議論が不十分であった。

障害の重い生徒への観点別評価については、教師の観察する力を高めることが今後の課題である。

5 成果と課題

(2) 課題 ③ ④

通知表の記述について、**保護者への理解啓発や子どもへの伝え方についての議論**はされておらず、今後の検討課題となっている。

教科横断的な取り組みに関しては、「内容」中心の取り組みになっている。今後は、「**育てたい資質・能力**」の育成に関しても教科横断的な取り組みをしていく必要がある。